

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893100061		
法人名	株式会社 ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂かわにし緑台		
所在地	川西市緑台7丁目3番43号		
自己評価作成日	令和4年11月23日	評価結果市町村受理日	令和5年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 コミュニティ・サポートセンター神戸
所在地	神戸市東灘区住吉東町5丁目2-2 ビュータワー住吉館104
訪問調査日	令和4年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ファイブシーズヘルスケアの理念である‘自分の親に受けさせたいと思える介護サービス、自分自身が受けたいと思えるサービス、今の子供たちに自信をもって継承してもらえる施設’の理念に照らし合わせて、介護に取り組んでいます。パーソンセンタードケアを大切に、利用者様を中心にその方の心情に寄り添ってその方の生活のペースに合わせ一緒に生活していけるように心掛けています。介護の判断基準は理念を思い返して反していないかどうかに基づいて行動を決めています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から新興住宅地に至る車通りに山を背にして小規模多機能施設と併設された事業所である。自治会の各種行事に参加し、多彩なボランティアが訪れるなど、地域との付合いは深まっていた。感染防止の為に交流を控えていたが、最近になって地域行事が復活し始め、コロナ感染収束後に参加することを楽しみにしている。面会中止が長引く中で、少しでも会いたいという家族の要望に応じて、時間・人数等の制限付き面会やオンラインでの面会を工夫している。食事やおやつの時、出来る範囲で入居者が盛付けや食器洗いをしている。お誕生日会には皆でおやつケーキにデコレーションをして楽しんだりする。協力医療機関と連携して、希望があり可能な場合は看取り介護も行っている。今年も一人の方をタッチング等をして静かに見送らせて頂いた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームかわにし緑台

評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(株)ファイブシーズヘルスケアの理念と共に、まんてん堂グループホームかわにし緑台としての理念をユニット入り口に掲示し、意識して実践できるようにしている。	「自分の親に受けさせたい…」で始まる3箇条の法人理念は職員に浸透している。また事業所独自の理念「皆が自然に笑顔になりその人らしい生活ができる居心地のよい施設」を作ってユニットの入口に掲示し、これを意識して日々の介護に当たるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の流行に伴い地域行事も中止が相次ぎ今年になって再開されたものがありました。感染予防対策の中で参加を辞退させていただいたため交流がはかれていません。	自治会に加入し文化祭に作品を出展したり、夏祭り等の行事に参加しボランティアが訪れるなど、地域との付き合いは深まっていた。現在は感染防止の為に直接的交流は控えている。最近になって地域行事が復活し始めているが未だ協賛のみに留めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して事業所の状況を知っていただくようにしておりましたが、コロナ感染対策の中でほとんど開催できず資料での配信になっており充分には出来ておりません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で運営推進会議を開催している。開催のご案内時に会議の資料を送付し、その中に質問や希望を記入していただく欄を設けている。	運営推進会議は家族・入居者のほか必要メンバーを揃えて隔月で開催し、活発な意見交換が行われ、議事録は全家族にも配布していたが、感染防止の為に中止となった。感染状況が緩和したR4年5月には開催することが出来たが、その後また中止となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所介護保険課、生活支援課と連携して入居者の生活面をサポートできるよう報告、相談を行っている。	市役所とは必要に応じて適宜連絡・相談をしている。今年から開始した生活保護受給者の受入れに関する手続等でも市とは連携している。運営推進会議メンバーでもある地域包括支援センターとは日常的に情報交換や入居相談等の紹介などでよく連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	三か月に一度身体拘束適正化委員会を開き拘束が無いことを確認し、内容を運営推進会議の場で報告している。また年に1回身体拘束の排除のための取組みに関する研修を行っている。	身体拘束適正化委員会と職員研修により、拘束の無いケアの徹底を図っている。安全の為にユニット出入口は施錠しているが、出たがる方には職員が付添って出て気分転換等をしている。家族に了承を得て離床センサーを使う方が4人いるが定期的に見直している。	

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回虐待防止に関する研修を行い、自らの行動を振り返り虐待に当てはまるような行動をしていないか確認することで不適切なケアや虐待がおこることを未然に防いでいる。	年2回の研修や「虐待の芽チェックリスト」を用いたアンケート等で職員の意識を高め、虐待の防止を図っている。管理者やリーダーは不適切な言動を見聞きすれば個別に指導し改善している。職員とは随時に面談をしてメンタルな健康にも配慮している。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内で研修を行っている。	成年後見制度や日常生活自立支援事業等を利用している入居者は現在はいないが、併設の小規模多機能型居宅介護には2人ほど制度を利用している方がいる。権利擁護に関する制度についての相談があった時への備えが今後の課題となっている。	将来権利擁護の制度が必要になりそうな入居者もおられるとのこと。今後制度についての研修や資料整備を進め、職員の理解と相談対応能力を高められることを期待します。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にしっかり説明させていただき、変更があった際はその都度説明して同意していただいております、理解いただいております。	契約時には重要な文書の大事な箇所を読み上げるなどして、最低でも1時間はかけて説明をする。最も多い「最期までみてもらえるか」との質問には重度化した場合の対応に関する指針等により退去条件や看取り介護について説明し納得頂いて契約している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所玄関に意見箱を設置。運営推進会議案内状に意見をお書きいただく旨告知し、その意見を運営推進会議議事録に記載したうえでご家族様に配布している。	家族からは面会が制限される中で様子を知りたいとか入居者と少しでも会いたい、繋がりたいという要望が多くなっている。最近では本人に携帯電話を持たせたいという要望に応じて、家族と話をしてもらったところ入居者への差し入れが行われたりした。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は上司と月に1度運営に関する打ち合わせを行っており、管理者と職員の間では月1回ケア会議を行い、ケアの方法の確認や業務の進め方に関する提言等を話し合い運営に反映させている。	職員の意見は管理者とのケア会議や種々のミーティングで出され、運営に反映されている。リビングの壁を飾る貼り絵や紙細工等のアイデアに始まり、行事やレクリエーションの企画、或いは離床センサーの提案など様々な所に職員の意見が活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	4月に年間の目標設定を行い、年度終了後に面談を行い評価について話し合いを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を定期的に行い、企業グループで行う外部研修にも参加することでスキルアップができる体制にしており実践に活かしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内の他施設との交流の機会を通じて情報交換やケア方法等の確認を行っている。また、虐待防止研修についてはグループ内で研修プログラムを設定し全事業所で統一した意識を形成できるよう取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にその方の生活状況・趣味嗜好・不安に思っておられる事をヒヤリングし、その情報を職員間で共有してケアにあたり少しずつ信頼関係を築いて安心して過ごしていただけるよう努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談にて要望や不安なことをお聴きしサービス内容をご理解いただく。入居後は生活の様子を電話やメールにて細目にお伝えしている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前情報と面談から、本人・家族の希望を介護計画書に盛り込み柔軟に変更できるよう対応している。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	パーソンセンタードケアを基本とし、日々その方が望む生活を送れるよう見守りながら必要な時に援助を行い、不安を感じられる時は寄り添うことができるような関係を築いている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子やその変化などをその都度家族に連絡し、状況を把握して頂き受診等が必要な時は協力いただいている。また、コロナ禍の為制限はあるが面会も積極的に勧めている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍での制限はあるものの予約をしていただければ面会可能な期間は受け入れている。	コロナ禍以降、友人・知人の訪問は感染防止の配慮から控えられている。家族の面会も中止となる期間の方が長いですが、予約制で人数と時間を制限し地域交流室で行っている。対面の面会が中止の間も事業所の携帯を使ったオンライン面会を工夫した。	介護計画書の送付時などに入居者の写真にコメントを付けて送ることがあるようです。家族は楽しみにされていると思いますので、人手確保ができればそのような機会を増やされることを期待します。
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性などを把握し、利用者間の関係を円滑にしながら、孤立しないように職員が巻き込んで雰囲気を作っている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了するような状況になってもその後の生活支援につながるお手伝いをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画書の作成時には、本人・家族から希望や望みを聞き取りを行い介護内容に反映させている。	入居時に本人、家族から希望や意向を聞き取っている。日々の生活の中では、その都度本人の希望を聞いているが、意思表示の困難な方には表情を見て、本人がどう思っているか推測している。針仕事が好きな方には裾上げをしてもらい介護計画にあげたことがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に把握できた情報はいつでも確認できるようにまとめてあり、日々の会話の中で新たに得た情報は家族に確認して追加している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々過ごす中で特筆すべきことはケース記録に残し変化の状態、身体的・心理的变化を把握し職員間で共有している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画における短期目標を毎日職員がモニタリングを記録し次月その達成度を確認して目標の修正、変更を職員によるケア会議で確認している。	モニタリングは毎日行い、結果を月1回のケア会議で話合っている。介護計画作成時は、家族に電話で希望や要望を聞いている。生活に変わりがなければ通常6ヶ月ごと、変化があれば、その都度対応を検討し介護計画を見直している。家族には郵送している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の様子や実践した介護はすべて記録システムに入力しいつでも職員が確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームとしての多機能化には限界があり、併設する小規模多機能ホームと連携することで広がりを持たせるよう取り組んできたが、現在のコロナ禍のもとで実行は厳しくなっている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前は地域行事や文化祭・オレンジカフェなどに参加したり、地域ボランティアを受け入れたりして交流を図っていましたが現在はすべて中止している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科往診・訪問看護(月2回)歯科往診(月4回)に薬局との連携で受診支援をしている。また内科・歯科以外の個別の診療については家族と協力しながら受診を継続しており適切な医療を受けられる体制を整えている。	入居者は全員が協力医をかかりつけ医としている。他科受診は家族が付き添い、医師とは家族を通じて文書で情報交換を行っている。歯科医と歯科衛生士の訪問もあり、歯科衛生士の指導の下に職員が口腔ケアを支援している。薬剤師には剤型の相談等をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護で定期的な健康相談を行い健康状態で気づいたことをかかりつけ医に報告してもらっている。それ以外に健康状態の変化について24時間連絡できる体制を整えている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はすぐに入院前のサマリーを提出できるようにしており、入院後は情報を病院・家族と情報を共有し、退院前は退院前カンファレンスを通じて受け入れ態勢の確認を行うなどして退院の支援を行っている。	入院時はパソコンデータからすぐに情報を出し、FAXで病院に送っている。退院時はカンファレンスが無く、リハビリ見学をする事もある。病院から電話で退院の打診があれば、情報の提供を受け、食事の形態や排泄の対応を検討し、円滑な生活支援に繋げている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に家族様へ重度化した場合の対応に係る指針を説明し同意いただいております。事態に直面した際はその指針に基づいて介護方針を立てることとなっている。	状態の変化があれば、その都度説明し、終末期にはかかりつけ医から看取りの説明があり、事業所の体制を再確認している。資料による看取りの研修を行い、部屋への訪問回数や声かけを増やし手を握ったり背中を優しくさすったりしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍前はAEDの講習を定期的を受けていたが、現在は研修の機会を持つことができず継続できていない。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自然災害BCPを策定し令和5年度より実践研修を行う予定。火災避難訓練は施設全体で年2回行い避難ルートの確認は行っているが夜間を設定した訓練は行っていない。	避難訓練は年2回、利用者数人が参加し水消火器などを使って行っている。居室は2、3階で1階の駐車場に避難することになっている。夜間想定訓練はしていないが、対応を話し合っている。ハザードマップで土砂災害の危険は低い事を確認している。	緊急時は携帯電話での連絡を想定しています。災害時でなくとも携帯電話は通信障害が起こることがあります。そのような時の対応を話し合っておかれては如何でしょうか。

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄・入浴時のプライバシー確保、人格を傷つけない言葉遣い等日々の接し方に配慮している。	不適切ケアがあれば、その時に注意し、ケア会議で共有している。呼称は苗字が基本であるが下の名前で呼んだ時の反応を見て決めている。職員が居室に入る時には理由も添えて承諾を得ている。食事の時のエプロンは本人の了解を得て、必要な時だけ利用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や行動から本人の希望や思いを推測し、本人に確認しながら自己決定していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活リズムや嗜好を把握することで、出来るだけその方のペースに合わせたサービスやプログラムを提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度理美容サービスを導入しており整容に努めている。また日々の服装もご自分で選ぶことができる方は職員と一緒に決めている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	洗米・料理やおやつへの盛り付け・食器洗い・食卓の準備などその方の出来ることに参加していただきかわっていただくようにしている。	食事はチルドタイプで届き、ごはんは事業所で炊いている。入居者の様子を見て、盛り付けやおやつのお皿を洗ったりできることをしてもらっている。お誕生日会には業者のおやつにデコレーションをして楽しんでいる。屋上でお茶会をし気分転換をすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量・水分量を記録し摂取状況を確認している。その中で摂取量が少ない場合は好みの飲み物を提供したり、食事の形態を変更したり個別の対応をしている。また医師と相談して栄養補助飲料を摂取してもらうこともしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをお願いし、必要な方には職員が介助して行っている。月に4回の歯科往診の際に口腔の状態を確認していただき、医師の指導の下一人ひとりに合った口腔ケアを実施している。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中・夜間ともそれぞれの方の排泄パターンを把握し、声掛けによってトイレで排泄できるように心がけ失敗を出来るだけ少なくするよう取り組んでいる。	様子を観察しトイレ誘導を行いながら、排泄パターンを把握し、失敗が少なくなるようにしている。夜間は睡眠を妨げないように声かけし、起きる方は誘導している。失禁が多くなれば、パッドやおむつの種類をケア会議で話し合って適切な方法を考えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態や量を記録し、医師との相談の上服薬による排便コントロールを行い便秘の予防を行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	業務の都合上入浴の時間帯は限られているため、希望に合わせた入浴時間は設定できない。ただ入浴日を設定してはならずその日の体調・気分に合わせて変更している。また清拭対応も行っている。	週2回は入浴できるようにしている。入浴を嫌がる方には事前にお知らせすると入ってくれている。その方の性格を考え、スムーズに入った時の状況を共有し対応している。入浴剤は毎日入れ、季節には柚子湯をすることもあり楽しんでいる。今は同性介助である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はその方の体調や生活のリズムの中で臥床していただく時間を設けており、夜間に不眠を訴えられたときは暖かい飲み物を提供したり眠意を催すまで寄り添うなど対応している。不眠が続くときは医師に相談し薬の処方も依頼している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は職員がいつでも確認できるように処方薬の内容をファイルしており、服薬の確認を毎回行っている。症状の変化が見られた場合はすぐに提携医師に連絡し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の把握から趣味としてされていたことがあれば素材を提供、家事の分担がやりがいにつながるようであれば職員と一緒に作業をしていただくなど行っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在はコロナ禍で外出は控えているが、お花見ドライブなど他者との接触がない外出は行っている。また屋上でおやつを皆さんと召し上がっていただいたり、散歩をしていたりして戸外に出ている。	今年の春はドライブで花見をすることができた。散歩は控えているが、広い屋上があり、遠くまで見渡せ開放的なので、歩いたりお茶会をして気分転換をしている。併設の小規模多機能の利用者がプランターで野菜を作っており、成長を眺めて楽しんでいる。	



自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持を希望される方はご自分で管理していただいているが、現在のコロナ禍では買い物などに外出していただくことはできず使用する機会はありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持され家族等に連絡されている方もおられるが、それ以外の方が希望された時は家族へ電話を掛けたりかかってきた電話の取次ぎをして支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は常に清潔に気を付けており、またリビングフロアの導線上に歩行を妨げるようなものは置かないようにして環境整備を行っている。また、壁には手作りのカレンダーを張ったり、季節に沿った装飾品をフロアに飾ったりしている。	掃き出し窓の外はベランダで、気分転換に外気浴ができる。壁に大きな木の貼り絵があり、季節に合わせて葉を皆で貼り替えている。今はクリスマス前で赤とグリーン折り紙のリングを作り飾っている。高い家具などは置かずゆったりとした空間を作り出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	4人掛けの丸テーブルと6人掛けの長テーブルがあり席は自由に移動していただいている。またテレビ前にソファがあり座ってゆっくり番組を鑑賞されることもある。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は予めベッドとクローゼット一台がセットされており、それ以外はお部屋に持ち込める物は自由に置いていただいている。	掃き出し窓の部屋は明るく、エアコンが付けられ、クローゼットは壁に固定されている。小さなテーブルとイスや、整理ダンス、テレビなどを置き、家族の写真等を思い思いに飾っている。仏壇を置いていた方もいる。朝に、職員が窓を開け換気を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内に歩行アシストの手すりを設置し、居室やトイレのドアにわかりやすい印となる装飾を貼り付けるなどして自分の意志で動くことができるようにしている。		